

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

政策No.	1	政策名	安全でみどり豊かな 人がつながるまちの形成	施策主管課	観光商工課
施策No.	6	施策名	自然との共生	施策主管課長名	櫻木 明正
施策関連課名			環境課		

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
A) 市民 B) ユネスコエコパークのエリア(市内全域)	A 人口 B 市面積 C	人 km ²
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
A) 自然環境を保全、活用する B) 生物多様性が保全される	① ユネスコエコパークについて知っている市民の割合 ② 南アルプス(広河原)を訪れたことがある市民の割合 ③ 希少種の数 ④	% % 種類

成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	①	ユネスコエコパークの認知度を示す/平成26年に南アルプス地域がユネスコエコパークに登録されたが、その認知度が伸び悩んでいる。市民が自然環境を保全・活用するためには、自然と人間社会の共生を目的とするユネスコエコパークについて知ることからはじめる必要があるため、成果指標とした。
	②	市民の自然環境の活用度を示す/市民が自然環境を活用していることの1つに、ユネスコエコパークの核心地域に足を運ぶことが挙げられるので、成果指標とした。
	③	生物多様性の保全状況を示す/保護すべき希少種の個体数が増加し、希少種から外れることは、生物多様性が保護されている状態だといえるので、成果指標とした。
	④	
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	①	市民アンケート調査『平成26年6月に「南アルプス」がユネスコエコパークに登録されました。あなたは、ユネスコエコパークについてご存知ですか?』において、「知っている」と回答した人の割合
	②	市民アンケート調査『南アルプス(広河原)に行ったことがありますか?』において、「はい」と回答した市民の割合
	③	山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例における南アルプス市域の指定及び特定希少野生動植物種数(定期的なモニタリング調査により生息数を把握)
	④	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430	
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370						
B 市面積	km ²	見込み値					264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	
		実績値	264.14	264.14	264.14	264.14	264						
C		見込み値											
		実績値											
成果指標 ① ユネスコエコパークについて知っている市民の割合	%	目標値	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	32.0	35.0	38.0	41.0	45.0	
		実績値	38.3	32.3	33.2	31.9	32.1						
② 南アルプス(広河原)を訪れたことがある市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	50.0	55.0	55.0	55.0	55.0	
		実績値	-	-	-	49.7	51.2						
③ 希少種の数	種類	目標値	-	-	-	-	-	22	22	22	22	22	
		実績値	15	15	15	15	15.0						
④		目標値											
		実績値											

目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)

- 前期基本計画の期間中、実績値は右肩下がり、成り行きでは認知度は足踏み状態になる恐れがある。前期の目標値(50%)と現況値(平成30年度実績・31.9%)に開きがあるため、後期では目標を見直し、5年間で毎年3ポイントずつ上昇させ、令和6年度には45%とした。
- 令和3年度には広河原山荘がリニューアルオープンすることに伴い、成り行きでも若干伸びると見込むが、この好機にさらに市民の関心度を高めて現地に足を運ぶ市民を増やすことを目指して、令和6年度には現況値より約5ポイント増の50%とした。
- 山梨県希少野生動植物種の保存に関する条例の指定、特定野生動植物のうち、南アルプス市域に生息するのは22種だが、後期基本計画期間において新たに希少種に指定される動植物がない(個体数が減り希少種となってしまう動植物を増やさない)よう、現状を維持していくことを目標値とした。
- 市民アンケートの新規設問であり、実績値の66%はある程度高い数字だと思われる。成り行きでは現状維持と見込み、目標値は令和6年度には現状より5ポイント増の71.0%とした。

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
地域の自然環境について関心を高めること。 地球温暖化に対して自らが暮らしのなかで実行すること。(ゴミの削減、省エネ、節水、自然環境の保護等)	自然環境保全対策を進める。(希少種の保護保全、調査) 本市及び南アルプスの自然環境について理解を深めてもらうための普及啓発事業の実施。拠点施設を有効に活用しながら子どもたちへの環境教育の実施を行う。 省エネ活動を推進するための各種普及啓発事業の実施。(エコ工作教室、わくわくエコチャレンジ等)

4 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R3年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
温暖化や人為的な影響を受けることによる動植物の生息地の変化や移動。 人為的な行為による希少種の減少。(盗掘や採取等) 加速する地球温暖化現象。	自然環境の保護を進めて欲しい。 故郷の自然環境について理解を深めたい。 地球温暖化抑止のための省エネ活動の実践。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	13				
関連事業予算額(単位:千円)	42,624				
(予算額の内訳)	国庫支出金	0			
	県支出金	182			
	地方債	0			
	その他	9,926			
	一般財源	32,516			

(1) 目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		ユネスコエコパークの認知度について、昨年度より0.2ポイント上回った。ユネスコエコパークという言葉は聞いたことがあるが、その理念や制度について理解をしている市民は少ない。
(2) 時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		希少種は山梨県条例で保護されることになったが、希少種の生息環境が急激に変化しなければ個体数の減少や絶滅には至らない。また、条例により規制されていることで希少種は保護されている。
(3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		国内のユネスコエコパークは10地域ある。単独の自治体で運営するユネスコエコパークと複合自治体で運営するユネスコエコパークに分かれるが、いづれも認知度、マンパワー不足による市民への周知や啓発ほどの登録地でも課題である。 南アルプスユネスコエコパーク構成市町村における専門部署は本市、伊那市(観光課エコパーク・ジオパーク推進係)、静岡市(環境創造課エコパーク推進担当)である。

7 基本計画期間における施策方針

(1) 施策の基本方針
ユネスコの正式事業であるユネスコエコパーク(生物圏保存地域)の理念を理解し、日常生活においても南アルプスの自然環境保護保全について意識を高める。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R2年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R3年度)の方針

基本事業	今年度(R2)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R3)の方針
1 国際連合とユネスコの事業についての啓発	今年度は、新型コロナウイルスの影響により、イベントの中止もあり広い啓発活動の機会なくなりました。 市広報では隔月でユネスコエコパークについての特集ページを設けた。 持続可能な開発のための教育(ESD)として市内では、若草小学校5年生の総合学習において、ユネスコエコパークについての授業実施した。 今後さらなるESDの推進として、市内小学校へ向けて、教育カリキュラムへユネスコエコパークの学習を組み込んでもらうため現場との調整が課題。	来年度は、SDGsの17の目標と南アルプスユネスコエコパークの目標を関連付け、子どもたちへの環境教育の充実に向けて具体的な取り組みを実施する。 市内全15小学校において、ユネスコエコパークについて授業へ取り入れ、学習機会を得ることで、次世代を担う子どもたちに、将来ユネスコエコパークを継続するために自分たちができることを考える教育を実施していく方針。
2 生物多様性の保護、保全活動の推進	今年度は、楡形山のアヤマ保全の防鹿柵を更新する予定、これまで鹿の食害から守ることで保護・保全ができていたと考えられていたが、今年の調査で、柵内のアヤマの数が減少傾向にあるという結果が出たことで、課題は植物減少の要因が鹿以外にも要因があることを学術的に検証する必要がある。	平成22年に設置した柵の成果としてこの10年間アヤマ他の植物も復活してきたが、ここ数年減少傾向がみられる種もある。鹿の食害以外の減少要因を今後は検討委員会において調査・検証していくことが課題となる。
3 自然エネルギーの有効活用と普及促進	公共施設における太陽光発電及び、水力発電所により自然エネルギーの活用を努めるが、施設の経年劣化等での不具合及び、その年の天候により発電量にバラツキがある。	公共施設において積極的に自然エネルギーや低公害車を導入するとともに、家庭や事業所への普及と省エネルギーの啓発に努め、自然環境の保全につなげる。
4		
5		